一人一人が備えてこ！防災力UP！鳥羽 vol.3

総務課防災危機管理室 ☎㉕1118

地震発生！あなたはどうする？津波避難行動

大規模災害時には、どのように避難行動を取るか、とっさの判断が求められます。
正しい避難行動ができるよう、日ごろからイメージして、備えておきましょう。

まずは、身の安全の確保！

揺れの大きさに関わらず、津波を警戒

地震の揺れを感じたら、防災無線などの呼びかけを待たず、すぐ高台などに避難！

Q　早く津波から避難するために、自動車で避難しても良い？

A　原則として、自動車で避難してはいけません。東日本大震災では、多くの人が自動車で避難して渋滞が発生し、そこに津波が来て犠牲になりました。しかし、例外もあります。高台まで距離がある、障がいや病気によって自分で避難することが困難であるなどの事情によっては、自動車による避難を初めから否定することは適当ではないと考えられます。この点については、今後、地域で話し合って、避難行動のルールを決めるなどして結論を得ていくべきことです。

Q　津波が来る！どこに避難する？

A　市が指定した津波避難場所や、町内会・自治会が指定した避難場所へ逃げましょう。しかし、津波は予想を超えて襲ってくることがあります。**過去の浸水区域や津波ハザードマップなどにとらわれず、各自の判断で、より高いところへ率先して避難しましょう。**

津波避難行動のポイント

1、揺れがおさまったらすぐに逃げる
2、周りに声をかけながら逃げる
3、より「遠く」ではなく、より「高く」へ逃げる
4、貴重品を取りに戻ったり、川・海、船の様子を見に行ったりしない
5、一旦高台へ避難したら、安全が確認できるまで低地に降りない
6、遠くで起こった地震により、津波が襲来することもあるので、防災無線や、テレビ・ラジオなどの情報には注意する

イコールパートナーシップ Vol.111

海女文化と男女共同参画

市民課人権・生活係 ☎㉕1126

今、日本ではちょっとした海女ブームが到来していることは、みなさんご存知でしょうか？その注目の海女さんですが、全国の約半数がこの鳥羽志摩地域で活躍しています。

鳥羽市においても、7月に行われた国崎の御潜（みかづき）神事に始まり、菅島のしろんご祭、10月には海女姿の女性100人が東京へ行って鳥羽の観光をPRする「海女姿100人キャラバン隊」の企画など、海女さんの勢いはとどまるところを知りません。

この海女文化がこの地方に根付いたのは、さまざまな諸説がありますが、リアス式海岸に面した地形から育まれる豊かな海の恵みにより生活を営むため、危険を伴う沖合い漁業に男性が従事した一方で、女性は畑仕事、また沿岸部での海藻採りや潜水による貝類の採取など、半農半漁の仕事に従事したことが理由として考えられます。

また、明治16年に書かれた「三重県水産図説」では、女性が冷静に自分の呼吸の長さをわきまえ潜水するので事故が少ないのに対し、男性は勇ましく潜水し、無理をしがちになり事故を起こしやすいため、潜水を禁止されたと記述されています。

このように、この地方には昔から男女が共に助け合い、お互いの得意な分野でそれぞれの能力を発揮する、まさに男女共同参画の根本となる文化が根付いていました。

三重県では、この海女文化を今年度末を目途に県無形民族文化財に指定する予定です。

このように、海女文化が広がっていくと共に、男女共同参画社会が広がっていくことを願っています。